

本日の学び テーマ:「この最後の者にも」 テキスト:マタイ20章1節-16節

【理解の手がかりとして】

前課に続けて、本課箇所もマタイ福音書特有の記事である。これは「ぶどう園の労働者」に対する賃金支払いに関するたとえ話。このたとえ話は、この前の記事と重ね合わせて読む必要がある。

- 19章 16-22節の「金持ちの青年」訪問の出来事のすぐ後にイエス様は言われた。「金持ちが天の国に入るのは難しい。重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」(19:23-24)「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる」(19:30)

では、本題のたとえ話に書かれていることは…あるぶどう園で、それぞれ違った時間に雇われた人たちがいた。朝早くから明け方から始まり、9時、12時、更に3時、5時と雇われた。それほど仕事があったし、その日のうちに一定の収穫をあげたかったのだろう。

そして明け方から働いた人たちは一日中働き、最後に5時から働いた人は、せいぜい一時間くらいしか働かなかったのではないかと思われるのに賃金は同じであった。そのように、それぞれ違った時間に雇われて、ぶどう園で働いた時間も異なったのに、最後にいよいよその一日の賃金を払ってもらう段になると、皆、同じ賃金しか貰わなかった。そういう話。

「デナリオン」という単位はこの当時の日雇い労働者の一日の賃金と考えられる。そして最初に働き出した人たちは、このような約束になっていた。「今日、ぶどう園で働きなさい。そうすれば一デナリオンを払おう」と。

そして主人はこの約束をきちんと守り、彼らに一デナリオン渡したのだが、その人たちは「不公平だ。自分たちが一番多く働いたのに」と不満が大きくなって文句を言った。すると主人は「友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい」(20:13-14)と答えたのであった。

このたとえ話を理解するために、この話が単に労働に対する報酬という観点でなく、神の人間に対する「救いの計画」という神学的観点があることを知っておく必要がある。この朝早くからぶどう園で働いていた人達というのは、先に「神の民」として選ばれた「ユダヤ人」のことを意味していて、そして後から順々に雇われる労働者は「異邦人」のことではないか、ということ。そのような神学的視点から考えると、最初にこのたとえ話の前提として考えた「金持ちの青年の話」や「先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる」という言葉の真意に近づけると思う。

金持ちの青年とは、単にお金を持っているというだけでなく、律法を順守しているという自負があった。彼自身「まだ何が欠けているでしょうか」(19:20)とイエス様に問い返している。彼はユダヤ人の代表的な存在としてここに登場し、自分を肯定する根拠、自分が救われて当然だとする根拠を全て持っている、と思っている自信家。でも、イエス様はそこに問題提起をされた。「あなたが天の国に入るより、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」(19:24)と。

「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである」(マタイ 5:3)…イエス様は徹底し

てユダヤ人たちの信仰の改革に臨んで行かれたと思う。「あなたたちの救いの根拠は、あなたたちの功績に対する報酬ではなく、神の大いなる憐れみ、恵みによるものだ」ということに気付かせようとした。

一方、その当時「救いにあずかれない人達」とユダヤ人から言われていた「異邦人たち」の方が、そのイエス様の恵みに鋭く反応したし、まことの信仰を示し得た(マタイ 15 章 21-28 節「カナンの女」)。「自分は救われるに値しない小さな存在」…そう認識する「心の貧しい人々」は、イエス様の憐れみに強く感動した。けれど、「自分は救われて当然」と自負する人々は、その憐れみをむしろ不公平だ、と感じた。

したがって、イエス様の救いはそれから異邦人の世界に大きく広がって行くことになる。キリスト教の歴史がそのことを示している。つまりこれが、「先にいる多くの者(ユダヤ人)」と「後にいる多くの者(異邦人)」のことであり、イエス様の救いにあずかって行く順序となっていたわけである。

夕方 5 時の労働者への報酬というものはとんでもない雇い主の恩恵だと思う。だからこのたとえは不公平の話などではない。神の恩恵の大きさの話である。そしてあらためて覚えておきたいことは、この主人は、朝から雇った人々に対しても決して約束違反をしたわけではなく、ちゃんと約束通りの報酬を支払っていること。私たちはこのことを見落としてはならない。神は、いかなる人に対しても、その人が「先の人(ユダヤ人)」であっても「後の人(異邦人)」であっても、等しく報酬を下さるお方である。あらためて覚えるべきことは「神の恩恵」についてである。

【聖書教育より】

「本田哲郎訳では『あなたたちも、ぶどう園に行ってくれ』と懇願している訳になっています。ぶどう園の収穫がはかどるからではなく、主人の『あなたも生きてくれ』と懇願に聞こえます。」(聖書の学び～天の国のたとえ)

